

江南市廃棄物減量等推進協議会 令和7年度第3回会議 会議録(概要)

●日時 令和8年2月2日(月) 午後2時00分～午後3時15分

●場所 江南市役所 3階 第3委員会室

●出席委員(22名)

会長 森田英守	副会長 安藤晴通
委員 千田憲義	委員 高橋正博
委員 柴田紀久代	委員 多湖直希
委員 古田みちよ	委員 大野 聡
委員 伊神克壽	委員 森 ケイ子
委員 山本昌資	委員 川上 弐南子
委員 大脇高志	委員 尾関 寿礼
委員 岩田正武	委員 中西 健仁
委員 古田一二三	委員 梅本 孝哉
委員 石井 進	委員 尾関 奈緒美
委員 黒岩弘子	委員 宮部 清美

●欠席委員(4名)

委員 後藤正臣	委員 高柳周廣
委員 秦 公輝	委員 土屋匡史

●事務局

環境課 課長	相京政樹
環境課 副主幹	長谷川 悟
環境課 主任	宮崎 寿哉
環境課 主事	石塚 建伍

●会議経過

議題① 資源ごみ分別品目・処理方法の見直しについて

●委員

現在、資源ごみの収集は月に2回、多い時で3回あります。その中で月1回の収集とする品目は、例えば、この日だけ電池類や布類を収集するとカレンダーで分かるようにする形になるのですか。

●事務局

月1回の収集にする品目については、月の前半はこの地区で回収、後半はこの地区で回収、というような形で実施することになるかと思います。

プラスチックの処理は、これまで廃プラという分別区分で、処理してきましたので、それをプ

プラスチック製容器包装類と一緒にすることになっても、経費はそれほど変わらずに移行できるのではないかという想定をしていました。

実際に見積もりを出してもらったところ、年間で500万円くらい増加してしまうことが判明し、財政担当との協議の中で、非常に厳しい市の財政状況があるので、一番遅らせられるところまで遅らせてほしいということになり、新ごみ処理施設が供用開始する令和10年度までには、法律と補助金の関係で必ずやらないといけないので、その時期まで遅らせて対応していくこととしたところです。

●委員

資源プラの指定袋を導入する案ですが、これは、市民の負担になるのではないのでしょうか。

●事務局

指定袋の導入によって、週1回の路線回収が実現でき、排出利便性を向上させるという考え方になりますので、そこは賛否あるかもしれませんが、可燃ごみと同じように近くでこまめに出せるようにするために袋の負担をお願いするという考え方になります。

●委員

可燃ごみの袋と同じように大・中・小の袋を作る予定ですか。

●事務局

近隣での実施状況を見ますと、基本的には大のサイズに合わせて作るのが、管理する側としても効率的だという事情もありますので、大きさは1種類にしたいと考えています。

●委員

収集回数を品目によって週1回や月2回に変更するという案は、市の都合で費用を安く済ませようということを優先しているように見えます。ごみを出す側としては、収集日がバラバラだと非常に分かりづらいです。正しく守ってもらえるかどうか疑問に思います。

また、プラスチックを袋に入れるということなら、今の可燃ごみ用の袋より丈夫でないと破れてしまうと思います。可燃ごみ置場にはカラスが来ないようにネットなどの対策をされていますが、その置場のスペースだけでは収まらない気がします。市で設置場所を広くしてもらおう等の段取りをしていただけるのでしょうか。

●事務局

ご意見のとおり、現状のやり方から変更するとなると、はじめは当然分かりにくいと思います。ただ、近隣市町は変更案のやり方で実際にできており、ごみの量に応じた収集体制の方が効率的だという考え方もあります。

市としては、今までは収集を月1回にするのは利便性が低くなるのではないかという思いがありました。前回の特別委員会では、月1回に統一すれば当番の負担も減るのではないかという意見も出ました。月1回にできる品目があれば当然収集経費も削減できますので、その削減分を、週1回で収集した方が良いと思われる資源プラの収集経費に回せないかというのが現在の考え方です。

さらに、可燃ごみと資源プラは収集曜日が同じにならないようにずらします。現在、可燃ごみは月木、火金、水土の3つの収集コースに分けていますが、例えば、このコースを月木、火金の2つに集約すると、水曜日が空きますので、その水曜日にプラスチック製容器包装類を出していただくという考えもあります。

●委員

可燃ごみの週2回の収集と資源プラの週1回の収集で、週に3回収集車が来ることになりませんが、その分、費用が多くかかるということではないですか。

●事務局

その点に関しては、プラスチック製容器包装類が多く出されるため、月2回の収集から週1回の収集に頻度を増やしたいというところが発想の起点になっています。

方法として、リサイクルステーションを有効に機能させるという考え方もありますが、現施設での保管可能量が限界に達しつつあるので、今の資源ごみ集積場所での収集を月2回から週1回に増やすか、もしくは路線回収にするかなど、今後の社会情勢も踏まえて収集体制の変更は行っていないといけないと考えており、その経費を捻出する方法として、月1回の収集にできるものがないかを検討しているという考え方の順序となっています。

特に転入されてくる方のご意見を伺うと、プラスチック製容器包装類の収集が月2回では非常に不便だという声があります。南部リサイクルステーションができて少しは解消しましたが、そ

の南部リサイクルステーションの保管可能量も限界に達しつつある状況になっています。

●委員

江南市以外の場所にも住んでいたことがあるので、資源プラを指定袋で出すということには抵抗がありませんが、他市では可燃ごみと同じ日に資源プラも一緒に出していました。可燃ごみと別の日に資源プラを出すということになると、ゴミ置場の許容量のことを考えればその方が良いかもしれませんが、子育て世代にとっては朝のごみ出しが週2回だったのが3回になるのは負担になるのではないかという意見も出てくるのではないのでしょうか。

●事務局

利便性を考えるとそのような思いもあるかもしれません。場所の確保ができるかという問題がどうしても引っかかるので、非常に難しいところではありますが、ご意見として参考にさせていただきます。

●委員

可燃ごみに木製品、繊維製品も含むようになり、袋に入れて出さなければならないとなると、今までは1袋で済んでいたのが、2袋、3袋と必要になってくるのではないかと思います。できるだけ資源化できるものは資源化するという方向で考えないといけないのではないかと思います。

また、ペットボトルについても路線回収にして、資源ごみの収集を月1回にして立ち当番の負担を減らすというような方法も検討していただきたいです。

●事務局

提示した案の考え方ですと、可燃ごみ量は増えることになります。しかし、特に転入された方からすると今の分別区分が細かくて分かりにくいという声もあります。新ゴミ処理施設では処理能力が向上し、木製品や繊維製品、廃プラの一部も可燃ごみと一緒に焼却することが可能となること、そして、ごみを焼却することで発電できる設備を備えているので、燃やすことの価値というのでも出てきています。廃プラについては現在、三重県で処理をしていますが、遠方へ持ち出すということも省けるので、処理の効率も良くなります。

当然、収集対象が増えれば、使用する袋も増えると思いますが、そこに対して減量の意識を持っていただくような周知をしていきたいというのが市の考えです。

また、特別ごみと布類を月 1 回の収集にする品目として設定していますが、こちらについては何かご意見ありますか。

●委員

月 1 回の収集にする品目について、現在の月 2 回の資源ごみ収集で何か不都合は起きていますか。もし起きていなければ、立ち当番をする必要がないのではないかと思います。

●事務局

地域ごとにそれぞれ問題はあるかと思いますが、立ち当番を廃止している場所も実際にはありますし、そうでないところもある中で、無人のところでは分別が曖昧な状態で見られるという懸念もあります。地区として、どこまで許容するかというところになりますが、やってみないと分からないということもあります。

●委員

自分の友人が住んでいる地区は 90~100 世帯ほどで、立ち当番もなく、かごを並べる当番もないとのこと。ごみを持ってきた人が自らかごを並べてそこへ入れていき、最終的に全部のかごが並んでいるようで、たまに間違えて他の場所に入っている場合もありますが、後から来た人が正しい場所へ入れてくれるというやり方を行っている地区があり、特に不満もなく続いていると聞いています。

地域によって事情があるかと思いますが、地域ごとに立ち当番をやるかやらないかを決めるのが一番良いのではないかと思います。

●事務局

コミュニティを大切にする地域もあるので、市から一律に立ち当番を廃止するというのは難しいと感じています。

立ち当番の廃止を要望される市民の方もいらっしゃいますが、地域の方針を尊重する中で、市ができることとしては、統合できる分別区分は統合して、立ち当番に頼らなくても良い、分かりやすい分別に移行していくということがあると思います。その 1 つが、今般のプラスチック新法による一括回収です。100%プラスチックの製品はプラスチック製容器包装類と統合して、そうでないものは可燃ごみとして収集する。令和 6 年度にはトレイと発泡スチロールをプラスチック製

容器包装類と一緒に出せるようにしましたが、これも、分別を分かりやすくしていくことによって、立ち当番の負担を軽減していくことを目的としていました。

●委員

市民参加でもっと幅広く意見を聞くのはどうでしょうか。当番制や分別収集の問題を市民の方から聞くということはできませんか。

●事務局

ご意見を聞ける場がたくさんあればあるほど、より良い方向が見えてくる可能性はあると思いますが、やるかやらないかの判断は難しいです。

●委員

令和8年度から一部収集方法の変更を行う予定でしたが、費用の問題で先送りになり、これまでの会議でも話が前に進まないことが多いです。市民にとって一番良い方法とは何かというところから発想していかないと、今後も変わらないと思います。

●事務局

令和10年の4月には新ごみ処理施設が稼働しますが、このタイミングでまた先送りということではできません。新施設の稼働を期限にして、最大限良い形で整理をしていきたいと思っています。

プラスチック製容器包装類の分別区分の統合であったり、見直しは少しずつ進めてきていますので、もう少し時間をいただいて整理をしていきたいと思っています。

●会長

生活をする以上、ごみは必ず出てくるので、ごみの問題については行政だけをお願いするわけにはいかず、地域住民の協力があってこそだと思っています。その間に、要介護認定を受けておられるような高齢者の方に対して、ごみの収集に関する策を考えていただいたのは素晴らしいことだと思います。

ただ、江南市のみならず、日本中で高齢化がどんどん進んでおります。特に今年の会議は若い方々も参加していただいておりますが、正直なところ、平日の日中による会議ですので、どれほど若い方の意見がこの会議に反映されているかは少し疑問を感じます。

市に対する要望の中で、ごみ当番をなくしてほしいという意見が非常に多いというのを以前か

ら聞いておりますし、おそらく皆様の中にもそのように考えている方がいらっしゃると思います。

新ごみ処理施設が令和 10 年度から稼働するので、私個人としては、町総代等と相談し、令和 10 年度から地域の立ち当番は廃止したいと思っています。地域のご協力がなければできないことではありますが、より住みやすい江南市にしたいという思いを実現するには、このタイミングがチャンスだと思いますので、町総代等にも協力いただきながら、1 歩でも前に進んでいけたらと思っています。

●委員

一宮市のごみカレンダーを見ると、地域別にカレンダーを作成しており、この曜日はこの品目というように、カラーで一目でわかるように作成されています。紙ベースでも、スマホでも両方で見れるようにするのが大事だと思いますので、令和 10 年度を目標に、江南市でも整備していただきたいと思います。

また、一宮市はペットボトルも袋で収集していますが、将来的に江南市はどのように考えていますか。

●事務局

資源プラの収集を行ってみて、袋収集の方が利便性が高いということであれば、ペットボトルについても袋収集への変更を検討する余地はあると思います。

各地域で資源ごみの立ち当番等について見直しを行うところもあると思いますし、市としてできることとすれば、まずは今の収集体制の見直しになると思います。利便性向上の観点で言うと、リサイクルステーションの充実というのもあるのではないかと考えておりますので、様々な対策を並行して考えていき、より良い方向へ見直していきたいと考えております。

議題② 江南市生活排水処理基本計画について

●委員

水洗化率と、生活排水処理率は別のものですか。

●事務局

水洗化率は下水道に関する指標になっており、下水道区域内で実際に下水道につないでいる人

口の割合になります。令和6年度の江南市の水洗化率は76.1%です。

目的を簡単に説明しますと、浄化槽というのは合併処理と単独処理というのがあって、単独処理浄化槽はトイレの水だけが浄化されて側溝に流れます。合併処理浄化槽は流し台、風呂、トイレの水が浄化されて側溝に流れます。

江南市は、単独処理浄化槽と汲取便槽が愛知県内でもかなり多い状態で、市では、下水道の整備を推進してきましたが、下水道の整備にも莫大な費用がかかるということで、下水道整備は市街化区域にとどめて、周りの市街化調整区域は浄化槽で対応していく方針になりました。

したがって、本計画は単独処理浄化槽と汲取便槽をいかに減らしていくかという計画だと捉えていただければ良いと思います。

●委員

パブリックコメントの3ページのご意見で、合併処理浄化槽への転換について、生活排水処理率95%達成が必要であると考え、助成金を増やす方向で検討してほしいという内容ですが、江南市で合併処理浄化槽への転換のための補助金の増額を始めて3年経ったと思います。10年計画で単独から合併に転換してもらえるように、市民の皆様が補助金を使って転換を図っているところですが、来年度の補助金額を減らすという話を聞きました。補助金額を減らすということは、環境課が進めようとしていることと逆行していると思いますが、その考えをお聞かせいただきたいです。

●事務局

環境課としても計画を前に進めたいところですが、市の財政状況も厳しく、財政部局とも何度も話し合いをした結果、現在の増額分の3分の1を減額する形で折り合いをつけたという事情があります。

計画期間の10年間で、全部を転換できるような補助金の予算を確保できるかということ、それは現実的ではないということになりますので、あくまでも人口の自然減を見据えながら、現状の転換の推移の流れは止めないというのが計画の内容となります。

実際、他の自治体に比べ、手厚く補助額を出した関係で転換が勢いよく進んだということもありますので、金額を少し調整して自己負担とのバランスを取ることとしたもので、令和8年度分

は、前年度比で撤去費用と宅内配管工事の補助金を少し上乗せしつつ、本体への補助を少し減額した上で、補助件数自体を当初の予定よりも少し増やしたという状況です。

●委員

1件当たりの補助としてはあまり変わらないということですね。10年計画の残りの期間も、補助金を減らさないように目標に向かって進められるよう願っています。

その他について

●事務局

令和5年度末時点で、下水道接続区域内で下水道に接続している比率は、愛知県平均が93.6%、江南市は75.7%、犬山市は86.9%、大口町は84.0%、扶桑町は67.9%という状況です。

●委員

単独処理浄化槽は公衆衛生上の問題もあり、水辺環境の問題にもつながります。ぜひ、単独処理浄化槽を廃止する方向で進めていただきたいと思っています。

●事務局

単独処理浄化槽を使っている家庭でも、その状況が環境によくないことという意識があまりないと思いますので、合併処理浄化槽に転換するメリットを含めて周知をしていきたいと思っています。

第3回江南市廃棄物減量等推進協議会終了